談 dan

被災地慰問で成長 魂に響くよう精進

愛と浄化の歌を歌いたい ❺

豊岡 厚恵さん
とよおか・あつえ
シャンソン歌手

――シャンソンを知らないままオーディションに

豊岡　まあ、それは少し大げさな表現ですが、入ったシャンソン教室の先生に早々にオーディションを勧められ、歌ったのが覚えたてのシャンソンと歌謡曲。シャンソンは「パリの屋根の下」という3拍子の曲。それが審査員に「3拍子になってませんね」と笑われたのに合格。平成14（2002）年からシャンソンライブで毎月ステージを務めることに。その後チケット売りに悩んで…。

――でもその後、お客さんの「ありがとう」の言葉に励まされ、6年後にはソロデビューを果たしました

豊岡　経営勉強会の方々が、チームヒギンズと銘打ってチームを組んでリサイタルを後押ししてくださったんです。そうしたらアナウンサー時代に披露宴の司会をさせていただいたカップルが2組、来てくださった。温かい人たちに支えられてきたんだと、実感したステージでした。

――東日本大震災の被災地の慰問にも行かれました

豊岡　炊き出しボランティアや美容師さんといった人たちと一緒に被災地を回りました。仮設住宅が並ぶ街の小学校の体育館などで1回に3、4曲歌うんです。とにかく歌で少しでも震災のつらさを忘れてもらえればと。でも、違ったんです。ミニコンサートが終わるとたくさんの被災者の方が、震災の時の話をしてくれるんですよ。私は歌を通じて被災した方を力づける。次はお話を聞かせてもらって、心の痛みに寄り添う。自分も成長する慰問となりました。

――そしてついに昨年は東京デビュー。先月末にもリサイタルをしましたね。関西だけで活躍するのもいいのでしょうけれど、やはり東京には憧れるものでしょうか？

豊岡　大好きです、東京。生まれも育ちも大阪で、住まいは奈良市内。でもアナウンサー時代に標準語を身に付けたせいもあってか、新幹線から東京駅に一歩降りたら関西弁は出ないんです（笑）。

――ご家族は豊岡さんがどんどん多忙になっても大丈夫ですか？

豊岡　結婚したのが遅くて44歳の時。周囲からはあきらめられていたのに「残り福!?」。その夫は「人を感動させられることって素晴らしいよ、がんばりね」って。本当にありがたいですね。

――まだデビューから14年。これからさらに活躍の場を広げていかれますね

豊岡　歌はその人の生きざまや生き方が出ると思うんです。だからこそ人として成長していきたい。深く傷つき心を痛め、多くの涙を流したこと。これまでの人生で経験した喜びや哀しみの全てを歌に託して歌っていきたいんです。

そして歌を聴いてくださる方々の人生を共に振り返り、人本来の慈愛の心で魂に響く歌が歌えるよう精進していきたいと思います。原点である「愛」「浄化」「善き思い」。この思いを持って、歌が持つ力を発信できる歌い手になれるようがんばります。

end

聞き手　藤浦淳／撮影　門井聡

Copyright © The Sankei Shimbun. All rights reserved.掲載記事、写真の無断転載を禁じます。